

1. 日米株式と円/ドルの推移



(注)チャートは過去1年

	単位	2024/12/31	2025/10/31	2025/11/14	過去3年高値		過去3年安値	
		(前年末)	(前月末)	(前週末)	水準	日付	水準	日付
日経平均	円	39,894.54	52,411.34	50,376.53	52,636.87	2025/11/4	25,661.89	2023/1/4
NYダウ	ドル	42,544.22	47,562.87	47,147.48	48,431.57	2025/11/12	31,429.82	2023/3/15
円/ドル	円	157.20	153.99	154.55	161.95	2024/7/3	127.23	2023/1/16

過去3年高値・安値はザラ場ベース / 当社が信頼できると判断した情報に基づき作成

2. 日本株市場 先週の振り返り

～米国の政府閉鎖の終了に向けた期待の高まりから上昇～

先週の日本株市場は、日経平均が+100.16円(+0.20%)、TOPIXが+60.96ポイント(+1.85%)となり、米国の政府閉鎖の終了に向けた期待の高まりから上昇しました。業種別でみると鉱業、石油・石炭製品、繊維製品などの26業種が上昇した一方、金属製品、情報・通信業、精密機器など7業種が下落しました。

10日は、前日に米連邦議会上院で失効した予算を再開するつなぎ予算案で合意したと報じられたことを受けて、近く米政府閉鎖が終了するとの期待が高まり、上昇しました。11日は、引き続き政府閉鎖終了に向けた期待から買いが先行したものの、閉鎖終了に伴い再開される政府公式の経済統計が、結果次第で株価にマイナスの影響を与えるといった警戒感などが上値を抑制し、小幅続伸に留まりました。12日は、為替の円安進行を受けて、輸出関連銘柄を中心に買いが広がったことなどから、3日続伸となりました。13日は、取引時間中に米政府閉鎖の終了が決まったことを受けて、投資家のリスク許容度は一段と上昇し、TOPIXは連日で最高値を更新し、4日続伸となりました。14日は、前日にFRB(米連邦準備理事会)高官のタカ派的な発言を受けてハイテク株中心に米国株市場が下落したことなどから、国内のAI(人工知能)関連銘柄などへ売りが広がり、5営業日ぶりに反落しました。

3. 今週の主な予定

日程	曜日	国・地域	項目	期間	前回
11月17日	Mon	日本	GDP(国内総生産)速報値(前期比年率)	7-9月期	+2.3%
		米国	ニューヨーク連銀製造業景気指数	11月	10.7
11月18日	Tue	米国	製造業受注(前月比)	8月	▲1.3%
		日本	貿易収支	10月	▲2,374億円
11月19日	Wed	米国	機械受注(船舶・電力を除く民需)(前月比)	9月	▲0.9%
		米国	貿易収支	8月	▲783億ドル
11月20日	Thu	欧州	FOMC(米連邦公開市場委員会)議事要旨公表(10月28・29日開催分)		
		欧州	消費者信頼感指数	11月	▲14.2
11月21日	Fri	米国	非農業部門雇用者数変化	9月	+2.2万人
		米国	フィラデルフィア連銀製造業景況指数	11月	▲12.8
11月21日	Fri	日本	中古住宅販売件数	10月	+406万件
		日本	CPI(全国消費者物価指数)(除生鮮/前年比)	10月	+2.9%
11月21日	Fri	欧州	製造業PMI(購買担当者景気指数)	11月	50.0
		米国	サービス業PMI	11月	53.0
11月21日	Fri	米国	製造業PMI	11月	52.5
		米国	サービス業PMI	11月	54.8

決算発表予定 他	国内	決算発表 :	11/19 東京海上HD、SOMPOホールディングス、MS&ADインシュアランスグループホールディングス
	海外	決算発表 :	11/18 ホーム・デポ、百度 11/19 ターゲット、エヌビディア、ハロアルト・ネットワークス 11/20 ウォルマート、キャップ

※当社が信頼できると判断した情報に基づき作成

4. 日本株市場 今週の見通し

～米国の景気と金融政策を巡る思惑に左右されつつ、国内企業の業績期待から底堅く推移～

今週の日本株市場は、米国の景気と金融政策を巡る思惑に左右されつつ、国内企業の業績期待から底堅く推移するとみえます。先週までに発表された国内主要企業の7-9月期決算では、足元までの堅調な業績が確認されるとともに、2025年度会社計画は上方修正優勢となり、総じて良好な内容となりました。今週は19日に、10月FOMCの議事要旨が公表されます。当該会合において複数の参加者が利下げに反対したと表明しておりタカ派的な内容になるとみえますが、想定以上となれば12月FOMCにおける利下げ観測が一段と後退し株価の重しに働くこととみえます。一方、20日には、米政府閉鎖の影響で発表が遅れていた9月の雇用統計が発表されます。米労働市場の大幅悪化を示せば米景気への懸念が高まる可能性がある反面、民間の雇用関連データで示唆された緩やかな軟化にとどまれば、米景気に対する安心感に繋がるとみえます。米経済指標の発表が再開される中で、しばらくは米国景気や金融政策を巡る思惑に左右される展開が続くとみえますが、日本株市場は企業業績への期待に支えられ底堅く推移するとみえます。なお、これまで世界的な株価上昇をけん引してきたAI関連銘柄の業績を見極める上で、19日のエヌビディアの決算も注目されます。その他の注目材料として、日本では17日のGDP速報値、19日の機械受注、21日のCPI、米国では20日の中古住宅販売件数、21日の製造業/サービス業PMI、欧州では21日の製造業/サービス業PMIなどが挙げられます。

ALAMCO

朝日ライフ アセットマネジメント

URL: <https://www.alamco.co.jp>

商号等 : 朝日ライフ アセットマネジメント株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第301号

加入協会 : 一般社団法人投資信託協会/一般社団法人日本投資顧問業協会

本資料は、朝日ライフ アセットマネジメント(以下、「当社」といいます。))が、投資の参考となる情報提供を目的として作成したもので、特定の商品に対する投資勧誘を意図するものではありません。本資料は当社が信頼できると判断した情報に基づき作成しておりますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。資料中に記載されたグラフ、数値等は過去の実績であり、将来の運用成果等を保証するものではありません。また、コメントについては作成日時時点での判断であり、将来予告なく変わることがあります。最終的な投資決定はお客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。